

## 資料－5

第37回 維持管理・環境管理専門委員会  
2019年5月9日

### 全体構想一部改訂（案）

# 全体構想一部改訂（案）

- 「荒川太郎右衛門地区自然再生事業 自然再生全体構想」一部改訂については、第49回協議会（2019年2月22日）に修正状況を確認し、「読みやすさやデータの時点更新」等について意見照会を行った上で、照会結果に応じた修正を加え、第50回協議会において最終確認する予定となっています。
- 意見照会の結果、委員1名から意見を頂きました。
- 全体構想は当初作成時において十分議論の上作成されたものであることから、文章の変更や図表の加除は行わず、「読みやすさやデータの時点更新」の観点から必要最小限の修正に留めるものとします。
- 次ページ以降に、対応方針（案）に基づき事務局（案）を提示しますので、ご検討ください。

## 【対応方針（案）】

### <修正する内容>

- ：「読みやすさやデータの時点更新」に関するもの、表現がより適切と考えられるもの

### <修正しない内容>

- ▲：新たな調査・データの整理等が必要なため、対応を見送るもの
- －：「読みやすさやデータの時点更新」に当てはまらないもの、現案のままでも間違いではないもの

# 全体構想一部改訂（案）

表 意見に対する修正（案）

番号	全体構想ページ	意見	修正判断	修正（案） （修正しない場合はその理由）
1	2	図中に大芦橋と太郎右衛門地区を追記	○	意見を踏まえて太郎右衛門地区を地図に追加します。 ただし、大芦橋や他の橋梁は本地区に直接関係ないため追記しません。
2	8	「エ. 入間川と支川」～「カ. 隅田川」の上に「荒川流域」等の見出しを追記	○	
3	17	太郎右衛門自然再生地の位置のずれを修正	○	意見通り修正します。
4	19	縦断図の縮尺を見やすく修正、横断図に縮尺を追記	○	
5	33	樹林地が高木・壮齢樹化することによる極相化（単調化）してきている。⇒ 樹林地が高木・壮齢樹化してきている。（極相化は老齢化のこと）	○	意見を踏まえて下記に修正します。 「樹林地が高木・壮齢樹化して低木が減少し単調な環境となってきた。」
6	40	中池のムクノキ-エノキ林 ⇒ 中池のクヌギ-ムクノキ-エノキ林 ミドリシジミの食草となる若齢樹が少なくなることにより樹林が単純化することが懸念される。 ⇒ ミドリシジミの食葉となる若齢樹が少なくなることが懸念される	○	
7	61	「荒川太郎右衛門地区自然再生協議会」の箱矢印から「自然再生全体構想」へ矢印を追加。「作成」の文字を矢印に付記。	○	意見通り修正します。
8	61	Step 1、2の表現と説明部分を修正。 自然再生事業実施計画（案）⇒ 自然再生事業実施計画	○	
9	61	Step 3の説明部分を修正。 整備された自然再生地を守り、育てるため、多くの主体が参画・協働し、様々な活動を展開していく。 ⇒ 自然再生地を守り、育てるため、多くの主体が協議会に参画・協働し、様々な活動を展開していく。	○	

- ：「読みやすさやデータの時点更新」に関するもの、表現がより適切と考えられるもの
- ▲：新たな調査・データの整理等が必要なため、対応を見送るもの
- ：「読みやすさやデータの時点更新」に当てはまらないもの、現案のままでも間違いではないもの

# 全体構想一部改訂（案）

表 意見に対する修正（案）

番号	全体構想ページ	意見	修正判断	修正（案） （修正しない場合はその理由）
10	はじめに	飛行場がつくられ ⇒ 飛行場が再造成され	—	協議会会長のお言葉ですので、現案のとおりとします。
11	はじめに	バイクの集積所に ⇒ バイクの競技場に	—	
12	3	冒頭枠内に以下を追記。 「しかし、最近では河床の低下により高水敷の乾燥化が進み、これを好む在来種・外来種の樹林や草が侵入している。なお、これにくわえ遊水地の強化が図られ新たな裸地が生じている。	—	当該箇所は「自然再生の対象となる区域」の説明なので、現案のとおりとします。 なお、意見にある内容は「第4節 太郎右衛門自然再生地の課題」で記載されています。
13	3	この周辺 ⇒ この区域	—	意味は十分伝わり、間違いではないので現案のとおりとします。
14	3	伝統的な水田 ⇒ 蛇行河川の特徴を活かした水田	—	
15	3	多自然農地 ⇒ 農家集落	—	元の用語と意見の用語は異なるものと考えられます。
16	4～5	対象区域の土地利用・植生別面積の整理および風景写真を追加	—	読みやすさやデータの時点更新についての意見ではなく、新たなデータ追加の意見となっています。 今回の全体構想一部改訂において、新たなデータの収集やこれに基づく考察は実施を予定しておりません。 ただし、2018年撮影の最新航空写真を追加します。
17	9	「表1-1 主要洪水と洪水被害」の内容は旧利根川流域も入っているのではないかと？	—	注釈に記載がある統計をもとに整理したものであるため、現案のとおりとします。
18	22	植生の説明が少ない。どのような樹種があるか、外来種があるか、生育状況は。写真を入れて説明する。	—	ここでは、「ア. 植生」、「イ. 動物」については、大まかな説明に留めています。詳細は、生態系モニタリング報告書を参照するよう明記しています。
19	22	湿生植物 ⇒ 湿性植物	—	「湿生植物」「湿性植物」の使い分けについては、異なる見解があります。本全体構想では、「湿生植物」に統一することとします。

- ：「読みやすさやデータの時点更新」に関するもの、表現がより適切と考えられるもの
- ▲：新たな調査・データの整理等が必要なため、対応を見送るもの
- ：「読みやすさやデータの時点更新」に当てはまらないもの、現案のままでも間違いではないもの

# 全体構想一部改訂（案）

表 意見に対する修正（案）

番号	全体構想ページ	意見	修正判断	修正（案） （修正しない場合はその理由）
20	22	湿性地で見られるムクノキ-エノキ群落 ⇒ 適潤地で見られるムクノキ-エノキ群落	—	意味は十分伝わり、間違った内容ではないので現案のとおりとします。
21	22	乾燥地で見られるクヌギ群落 ⇒ 弱乾性地で見られるクヌギ群落	—	
22	28	「ア. 土地利用の変遷」については、統計が信用できない。区域を限定して、空中写真で土地利用区分し、点格子法で面積を算出すれば簡単にできる。 「イ. 太郎右衛門自然再生地の土地利用状況」の冒頭の「太郎右衛門自然再生地周辺」の“周辺”は区域を限定すること。]	▲	既存の会議資料により、年代別に整理されているデータであり、当該区域も概ね同様の傾向であると考えられます。 また、今回の全体構想一部改訂において、新たなデータの収集やこれに基づく考察は実施を予定しておりません。
23	37	本来河川に発達するハンノキ林は、洪水毎に浸食や倒伏により攪乱・更新され、更新された場所に新たに萌芽や種子から若齢樹が生育する。そのため、河川のハンノキ林は様々な世代の樹林が混在することから、林床の光条件は多様となり、それら条件にあった多様な下草や、それらに応じた様々な生物が生息することにより、多様な樹林環境を形成する。しかし、現状のハンノキ林は攪乱・更新が減少しているため、高木・壮齢樹化が進んでおり、樹林環境としては単調化（極相化）してきている。 ↓ 本来河川に発達するハンノキ林は、洪水などの地表の攪乱により生じた未熟土（有機物などが混入されていない土）に先駆樹種として生育するもので、河床の低下による土壌の乾燥化、老齢化などによりハンノキが減少し、クヌギ・エノキ・外来のシンジュなどの広葉樹、将来的にはカシ類などの照葉樹林に替わる傾向にある。	—	間違った内容ではないので現案のとおりとします。 ただし、（極相化）という語句は、本来老齢樹化のことを指しますが、ここでは壮齢樹化に対して使用しているため削除します。
24	38	以下を追記する。 ・ 景観 湿地の造成、植栽木等に景観が考えられていない。 ・ 地下水位 地下水低下防止には河床の低下防止が必要。	—	読みやすさやデータの時点更新についての意見ではなく、新たな追加の意見となっています。

○：「読みやすさやデータの時点更新」に関するもの、表現がより適切と考えられるもの

▲：新たな調査・データの整理等が必要なため、対応を見送るもの

—：「読みやすさやデータの時点更新」に当てはまらないもの、現案のままでも間違いではないもの

# 全体構想一部改訂（案）

表 意見に対する修正（案）

番号	全体構想 ページ	意見	修正 判断	修正（案） （修正しない場合はその理由）
25	39	<p>&lt;蛇行河川の復元&gt; ⇒ &lt;蛇行河川の復元と平野部河川の風景再生&gt;</p> <p>Ⅲ. 荒川本川と連続させた流水路として蛇行河川を復元することにより、多様な水域・水際環境を形成する。 ⇒ Ⅲ. 荒川本川と連続させた流水路として蛇行河川を復元することにより、多様な水域・水際環境を形成するとともに、河川改修により最近見られなくなった河川風景を再生。</p>	—	読みやすさやデータの時点更新についての意見ではなく、新たな追加の意見となっています。
26	61	第3節 役割分担 ⇒ 第3節 役割分担(案)	—	タイトルなので(案)はつけない方が良いと考えられます。
27	61	役割分担(案) ⇒ 役割分担	—	内容部分では(案)はつけてある方が良いと考えられます。
28	61	<p>Step1～2の説明部分の意味がわからない。</p> <p>【実施者案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川管理者</li> <li>・自治体</li> <li>・教育機関</li> <li>・大学・大学院</li> <li>・NPO</li> <li>・企業</li> <li>・その他</li> </ul> <p>【施策案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然再生整備</li> <li>・環境学習等の利活用（施設整備、学校やNPOとの連携他）</li> <li>・生活環境保全</li> <li>・維持管理活動</li> <li>・普及啓蒙、広報活動</li> <li>・その他</li> </ul> <p>↓</p> <p>【実施者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川管理者</li> </ul>	—	<p>協議会の基本的な体制・実施内容であるため、現案のとおりとします。なお、以下について修正します。</p> <p>普及啓蒙 ⇒ 普及啓発</p>

○：「読みやすさやデータの時点更新」に関するもの、表現がより適切と考えられるもの  
 ▲：新たな調査・データの整理等が必要なため、対応を見送るもの  
 —：「読みやすさやデータの時点更新」に当てはまらないもの、現案のままでも間違いではないもの

# 全体構想一部改訂（案）

表 意見に対する修正（案）

番号	全体構想ページ	意見	修正判断	修正（案） （修正しない場合はその理由）
29	61	Step3の説明部分を修正。 【実施者案】 ・河川管理 ・自治体 ・教育機関 ・公募委員 ・大学・大学院 ・NPO ・企業 ・その他 ↓ 【実施者案】 ・河川管理 ・自治体 ・教育機関 ・研究所 ・公募委員 ・大学・大学院 ・NPO ・企業 ・その他	—	研究所という項目がなくとも、「その他」の項目に含まれるため現案のとおりとします。 ただし、下記の抜け字は修正します。  河川管理 ⇒ 河川管理者
30	61	Step2の表現を修正。自然再生整備中 ⇒ 自然再生整備実行	—	間違いではないため現案のとおりとします。
31	61	Step3の表現を修正。自然再生整備後 ⇒ 維持管理等	—	
32	61	Step1・2の説明文について、Step3へも矢印を追加 Step3の説明文の矢印をStep3ではなく「荒川太郎右衛門地区自然再生協議会」の箱矢印に接続	—	それぞれの説明文は各Stepに対応しているため、現案のとおりとします。
33	61	「荒川太郎右衛門地区自然再生協議会」の箱矢印からStep3への矢印に、「意見」の文字に加えて「実施」の文字を付記。	—	「実施」は実施者（Step3の説明部分に記載）が実施するものであるため、現案のとおりとします。（実際は協議会全体として取り組むことも想定され、現状はその状態となっていますが、ここでは役割分担の説明を示すものであるため、変更しない方が妥当と考えられます。）

- ：「読みやすさやデータの時点更新」に関するもの、表現がより適切と考えられるもの
- ▲：新たな調査・データの整理等が必要なため、対応を見送るもの
- ：「読みやすさやデータの時点更新」に当てはまらないもの、現案のままでも間違いではないもの

# 全体構想一部改訂（案）

●なお、委員からの意見のほか、事務局側の再確認により追加修正がありました。

- ・修正ページ P42
- ・修正箇所 近年確認記録のない生物（文章・写真）
- ・修正内容 近年確認例のある「クイナ」が記載されているため、削除する。

P42

- ・ 太郎右衛門自然再生地では、現状よりも豊かな湿地環境があったとされている。特に現在乾燥化著しい上池でもかつては湧水によって開放水面が維持されていたとされる。
- ・ 過去に確認され近年確認記録のないタマシギ、~~クイナ~~、サクラソウなどが普通に見られるような湿地環境の再生が望まれる。
- ・ 荒川流域や利根川・江戸川流域で、関東地域における生態系ネットワークの形成を図るため、コウノトリを指標種とした自然再生が広域的に取り組まれており、太郎右衛門自然再生地でも同様の取り組みが望まれる。



タマシギ



~~クイナ~~

~~クイナ写真は  
リバーフェスティバル備センター  
川生物図典より~~



サクラソウ



コウノトリ